

# JPCAショー '96

JPCAショー '96(社団法人日本プリント回路工業会主催)が6月5日から7日まで、有明ビッグサイト＝東京国際展示場で行われ、9万人を超える入場者で賑わいました。

ショー自体はプリント基板、基板材料、部品、実装用機器、試験・検査機器など電子機器の製造・組み立てに必要な各種商品を集めたものですが、ここではプリント基板設計用のツールに焦点を絞り、出展社のようすや、製品の動向について解説します。

なお、新製品の多くは本誌前号の特集で取り上げています。また、前号で紹介できなかったツールは本号の別の記事で紹介しているので、そちらをご覧ください。

## ■ 大手ベンダがPCに移行するのか？

設計ツールを集めた会場で目を引くのは外資系の大手EDAベンダのブースです。メンター・グラフィックス・ジャパン、ケイデンス・デザイン・システムズ、そして日本インターグラフはベリベストと会社名が変わって登場しています。

ここで目を引いたのは、UNIXベースの大手であるメンター・グラフィックス社がパソコン版のPCBツールであるIntegra Station(次ページの写真)を発表したことでしょう。ただし、同社の傘下にあるAntaresグループの製品のようなシュリンク・ラップと呼ばれるビジネス・ソフトのような売り切り商品ではなく、UNIXベースのツールと混在した環境で使い、サポートもUNIXベースの商品と

同等なレベルを維持するというコンセプトのものです。

これは、ワークステーションとPCの性能に差が無くなり、EDAツールの価格がUNIXかWindowsかというプラットフォームの違いではなく、ツール自体の性能やセールス・チャネル、サポート体制の違いによるべきであるとの認識が得られ始めたからでしょう。

## ■ 日本でもPCに移るか？

図研、キャディックス、横河ディジタルコンピュータ、富士通などの日本のベンダもWindows版に動く気配です。

このように、UNIXベースの大手ベンダまでがWindowsに進出してくると、いままでロー・コストを売り物にしてき



たパソコン版PCBツール・ベンダの動きはどうなるのでしょうか。

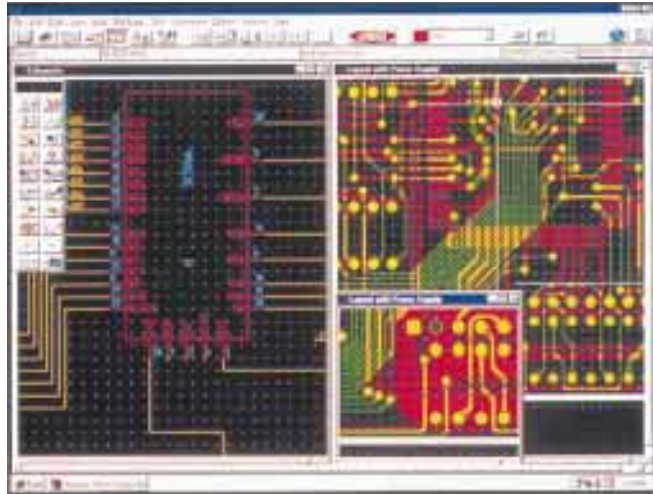
このショーには、Windows版で気鋭のProtel、老舗のOrCADが展覧していませんでしたが、ソーテックからはTangoとPCADが統合されたACCEL EDAシリーズが登場しました。また、PADSも展覧していました。

またオート・ルータSPECCTRAで有名なCooper&Chyan Technologyも展覧していました。同社は多くのPCBツール・ベンダにルータをOEMで供給するほか、LSIでの配線技術をSynopsys社に提供しています。

ショーの一部には機器の実装技術を見せるコーナーや大学、または研究所の研究室を紹介するコーナーも設けられていました。

## ■ ツールの価格は安くなるか？

EDAツール全般は、日本ではやはりまだまだ価格が高いという印象があります。海外でのシュリンク・ラップEDA



メンター・グラフィックスのパソコン版PCBツールIntegra Station

ツールの価格と、輸入品の販売価格や国内製ツールの価格の大きな差は問題になっています。

この内外価格差は、もちろんツールの普及度の問題もありますが、ユーザだからとサポート以上のサポート、あるいは設計代行のようなことまで開発元や販売元に無償で求めるような日本の文化にも

その一因があると思います。

ツールの価格と利用技術の価格を分離し、良いユーザには安くツールが提供でき、手助けが必要なユーザからは適正なサポート料を受け取るのが当然であるというような意識の変革が必要ではないでしょうか。

